

食と栄養のコミュニケーション [ボタラヴィ]

Bota la Vie

Contents

Topics

第29回 統合療法コンベンション

「元気に健康に生きるための医療と食事、
生活の基準を学ぶ」

BOTALABO PRODUCT

最先端の光治療が自宅で出来る
“レーザーウォッチ”

11 月号
2023 Nov.



第29回 統合療法コンベンション

元気に健康に生きるための 医療と食事、生活の 基準を学ぶ

いま日本では、現代病に悩む人が増え続けています。中でもがんやアレルギー、糖尿病、精神疾患などはここ数十年で激増しており、今や日本人のほとんどが何かしらの疾患や症状を抱えていると言われています。もし自分や家族、身近な人が病に直面したら、どのような治療を選択するか。もっと言えば、未然に防ぐことができるとしたら…。11月4日(土)・5日(日)に開催する「第29回 統合療法コンベンション」では、「元気に健康に生きる」をテーマに医療と食事、生活に関する身近な情報をお届けします。



日本は“不健康”長寿国

日本は長寿国である一方で、寝たきりの老人が世界で最も多いと言われていることをご存知でしょうか？2020年の介護保険事業状況報告（厚生労働省）によると、施設に入所しているいわゆる“寝たきりの老人は、およそ300万人とされ、施設外の人を含めればさらに多くの人が同じような生活を送っています。高齢化が進んでいるとはいえ、これほど寝たきりの老人がいる国は日本だけと言われています。

さらに近年では、子どもの発達障害や若者の精神疾患なども急激に増えています。日本は精神科病棟も非常に多い国で、精神科の病床だけでも33万8000床にのぼります。OECD加盟国の中で人口1000人あたりの精神科ベッド数は、日本が2.6床で断トツの1位。2位のベルギー（1.4床）とはダブルスコアに近い差があります。

ここ数年で次々に誕生した新薬や、高度な医療技術の発達、日本の医療の進歩はもちろん、延命治療や終末医療にも大いに貢献しています。しかし、現代医療はあくまで症状を取り除くことが優先され、必ずしも根本的な解決策を提案したり、健康を提供してくれるとは限りません。

今回のコンベンションに登壇する米田倫康先生は、そんな現代医療の盲点に切り込みます。「精神科患者600万人、精神疾患・発達障害診断はなぜ急増したのか！」と題して、今の日本でなぜこれほどまでに病人が増えているのかを分かりやすく解説します。



日本の食べ物は安全？

医療の力で一時的に回復したとしても、病気になる原因にアクセスしなければ、再発リスクは避けられません。もちろん原因は「治療」ではなく「病気になる前段階のその人の食事や生活、環境」にまで遡る必要があります。

特に現代の食環境は劣悪で、食品添加物や農薬、抗生物質を使用した魚や肉など、あらゆる食品に有害物質が含まれています。近年では遺伝子組み換えなど、原料自体が汚染されているケースもあるため、ますます安全な食品選びに戸惑います。

例えば、私たちが普段何気なく摂取している小麦粉。そこに発がん性物質が入っていると聞かれたら驚くのではないのでしょうか。

しかし実際、日本で消費されている輸入小麦には「グリホサート」と呼ばれる農薬が検出されます。グリホサートは、発がん性のみならず、環境ホルモン作用があり、出生異常や自閉症スペクトラム障害になるリスクを高めることが示されています。（イギリス医学誌BMJ 2019年3月20日）農林水産省の調査によると、2013年以降に日本が輸入したアメリカ産とカナダ産のなんと90%以上の小麦からグリホサートが検出されています。

EUでは「Farm to Fork」という食料生産についての戦略を公表し「農薬を2030年までに半減、有機農業面積を耕地の25%にする」としています。日本の有機農業面積は世界の下位で、わずか0.5%（2018年）です。日本の食材は安全だというイメージがありますが、実際は世界でもかなり遅れをとっているのが現状です。

今回のコンベンションでは、このような日本の食環境や栄養問題などについても多く取り上げられます。「食の劣化」をテーマに今回初登壇する安田節子先生（NPO法人日本有機農

統合療法コンベンション 前回の参加者の声



ガンに対する恐怖心がうすらぎました。もっともっと多くの方たちが参加できるといいなと思いました。



感動の連続でした。がん患者2年目として勇気が出ました。



どの先生方の講演もとても内容がよく今までの自分の心の持ち方が変わりそう。明るい未来が見えてきたような1日でした。有難うございます。代替医療の効能がもっと広がるといいです。



私は看護師として働いた経験があり西洋医学の現場にも居ました。現在いろいろなお客様の施術を行っています。癌の患者さん（リンパ浮腫）やうつ患者さんをはじめとして、西洋医学だけでなく、代替療法の効果を実感しています。

業研究会理事)の講演は、食意識の高い人必聴です。

がんは死の病ではない

統合療法コンベンションは、標準治療だけではない、がんについての予防法から治療法まで、一般の人でも学べる日本では数少ない機会の場です。日本人男性の2人に1人、女性の3人に1人ががんになると言われている今、がんについて一人ひとりが最低限の知識を持つことが大切と言えます。

例えば、野菜や海藻といったアルカリ性食品を多く摂ると、がん細胞が増えやすい体内環境(酸性)から、がんが住みにくい環境(アルカリ性)に変化します。もちろん、がんのエサとなる糖質や体内環境を酸性に傾ける塩分の多い食品などにも注意が必要ですが、食生活を改善し、効果的な治療を行えば、進行したがんでも増殖を抑えることができます。アルカリ化療法を実践する、からす



ま和田クリニック院長 和田洋巳先生は、今回の講演でステージ4のがん患者の劇的な回復例を取り上げます。

他にも糖尿病や不妊症、感染症などについて、納得して取り組める安全な治療法、そして予防法を総勢10名の医師や専門家がわかりやすく解説します。「健康に生きるために必要な情報を、一人でも多くの方に届けたい」というシンプルな思いを掲げ、28年前にスタートしたのがこのコンベンションです。今回もオンラインで全国どこからでも視聴が可能です。自分の健康、家族の健康を確かなものにしたい人は、ぜひ一度参加することをおすすめします。

会場&
オンライン
同時開催

第29回 統合療法コンベンションのご案内

開催日 2023年11月4日(土)・5日(日) 会場 すみだ産業会館(東京・錦糸町)

料
金

1日券

本会員 ￥6,000(税込)

準会員 ￥7,000(税込)

一 般 ￥9,000(税込)

2日
通し券

本会員 ￥10,000(税込)

準会員 ￥13,000(税込)

一 般 ￥16,000(税込)

■ 本会員…NPO法人がんコントロール協会会員

■ 準会員…ボタニック・ラボラトリー会員・生活科学研究会会員・日本ホリスティック医学協会会員・NHT会員

■ 一 般…上記のどこにも属さない方

※金額は会場・オンライン一律です

お申し込み方法

インターネットでお申込み

teket

検索



お電話でお申込み(※会場チケットのみ)

☎0120-099-727 [平日9:30-17:30]

講演者情報

11月4日(土)



- ① 帯津 良一 医師・医学博士、帯津三敬病院名誉院長
- ② 加藤 直哉 医師、こもれびの診療所院長
- ③ 安田 節子 食政策センター・ビジョン 21 代表
- ④ 米田 倫康 市民の人権擁護の会日本支部 代表世話役
- ⑤ 新井 圭輔 医師、あさひ内科クリニック院長

11月5日(日)



- ① 福田 克彦 医師・医学博士、福田内科クリニック副院長
- ② 西脇 俊二 医師、ハタイクリニック院長
- ③ 和田 洋巳 医師・医学博士、京都大学名誉教授
からすま和田クリニック院長
- ④ 森山 晃嗣 NPO法人がんコントロール協会理事長
- ⑤ 宗田 哲男 医師、宗田マタニティクリニック院長

Switch

私の栄養スイッチ

Testimonies

生まれた時から肌が弱く、2歳の時にアトピー性皮膚炎を患ってから20年余り。重度の皮膚病に苦しんできた女性は、ボタニック・ラボラトリーと出会ってそれまでの人生が一変します。全身の痒みやうつ症状など、重苦しい闘病生活からどのようにして解放されたのでしょうか？

「重度の皮膚病からの解放に

つながった解毒とグリーン」

男女の双子として生まれた30代女性のOさんは、生まれつき肌が弱く、2歳の頃からアトピー性皮膚炎の症状があったそうです。双子の弟も症状は出ていたようですが「私だけがだんだんひどくなっていた」といいます。

アトピー性皮膚炎は、病院にかかる一般的な治療薬としてステロイドを処方されます。Oさんも例外ではなく、小さい頃からステロイドを塗るのがあたりまえの生活を送ります。この薬は人や症状によって効果に差があり、重症化すると「痒みを抑えるためにさらに強い薬を欲する」傾向があるとされています。

Oさんがまさにそれで、物心ついた時から高校までずっと全身の痒みと闘い続けてきました。首周りや腕、脇、体全体に湿疹が広がり「気づかないうちに痒いて皮膚が血だらけになる」ほど。小・中・高とバスケットボールに励んだOさんは、皮膚の保湿をしないとボールを触るだけで手指が擦り切れ、包帯でテーピングが欠かせない状態でした。

思春期や青春時代を迎えると、Oさ

んはしだいに精神的にも落ち込みます。母親も不憫に思ったのでしょうか。洗剤や化粧品、健康食品など皮膚に良いものを色々試しますが、状態は思ったほど改善しませんでした。

その後、栄養士の資格を取るために栄養系の専門学校に進学、ここで「栄養が体に影響を与える」ことを初めて学び、思い切つてステロイドをやめることを決意します。そして炭水化物や甘いものを極力控え、化学物質を含んだ化粧品や洗剤、歯磨き粉、入浴剤を変えていくと「体が変わっていくのがわかった」そうです。

栄養士の資格を取り、のちにドラッグストアに就職したOさんですが、ほとんどなくして病気が再発します。「化粧品や洗剤を見直すだけでは限界がある」と思ったOさんは、1年ほどで退職し、以前から知り合いだった自然派化粧品を扱う会社の人に相談します。

それが、Oさんの体にスイッチが入るきっかけになりました。当時ボタニック・ラボラトリーが行なっていた「ジューススクレンズ」セミナーへの参加を勧められ、驚きの体験をするのです。

講義を受け、3日間の断食と糖質制限で体内の解毒を徹底的に行います。一方でボタラボグリーン、キャロット、ミネラルを補充し、細胞の代謝を促します。

その結果「体が軽くなり、一週間ほどで顔のぶつぶつや湿疹、痒みもなくなる」などの変化を実感します。自分の病気がいかに食や栄養と関係しているかを思い知らされたOさんは、その日から食事を徹底的に見直します。炭水化物や糖質をカットし、添加物が多い調味料をやめ、脂はココナッツオイルを使用し始めます。そしてグリーンを朝晩500CC毎日欠かさず飲み続けるようにしたのです。

それから7年。今でも食生活はもちろん、化学物質に気を付け、縁ができた自然派化粧品の会社で働きながら、夫と3人の子供たちと幸せに暮らしています。(完)



Before

After
(1ヶ月半後)

【実際の写真】

劇的に変わった O さんの皮膚